あなたの「声」を聞かせてね
～数字から探る広島県の現状と課題～

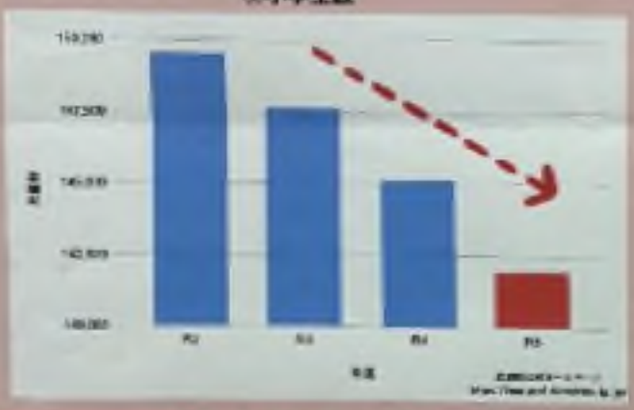
【動機】
私は将来、子どもたちの命と心を守る「児童福祉司」になりたいと考えている。
その夢への第一歩として、まずは身近な広島県でどれほどの子どもたちが虐待を受けているのか、その現状を知りたいと考えた。
親から虐待を受けていた子どもの多くは「親が好き」と言えるそうだ。
どんなにひどいことをされても子どもにとって親は大切で、かけがえのない存在ということだ。
そのような子どもが「助けて」「つらい」とサインが出せるよう、
どのようにしたら児童相談所が身近なものになるのか探究を進めていく。

①被害児童の年齢別割合

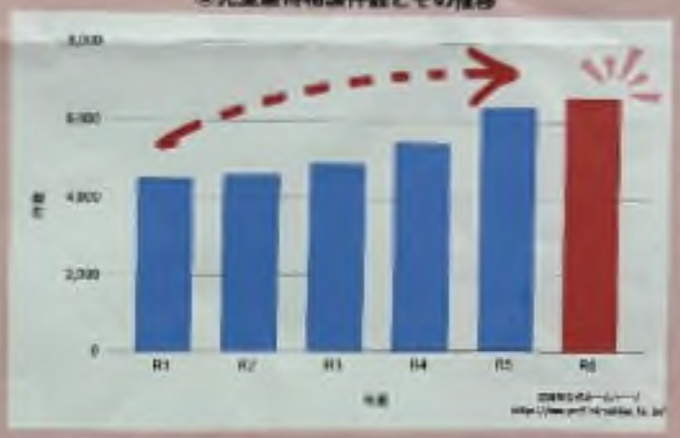
年齢層	割合
0歳-2歳	約15%-18%
3歳-5歳	約23%-25%
5歳-11歳	約35%-40%
12歳-17歳	約10%前後

多い！！

②小学生数



③児童虐待相談件数とその推移



①-③から考えられること
・小学生に相当する年齢層の割合が最も高い傾向が見られる
・小学生数は減少傾向にある
・相談件数は増加している
↓
「潜在化」していた児童虐待が
「見える化」している？？

④虐待相談の相談種別



令和元年12月	3時 (いちはやく) の完全無料化	・通報・相談の心理的、金銭的ハードルが低下
令和2年	改正児童虐待防止法等の施行	・体罰の全面禁止 ・介入と支援の分離 ・連携強化
令和5年	こども家庭庁の発足	・行政一元化 ・こども基本法の施行
令和6年	改正児童福祉法の本格施行	・こども家庭センターの全国展開 ・一時保護状の導入 ・「18歳の壁」緩和

④と表より
目に見えなかった「心理的虐待」が半数を占める
↓
今まで発見されていないものが
様々な政策により「見える化」されてきた

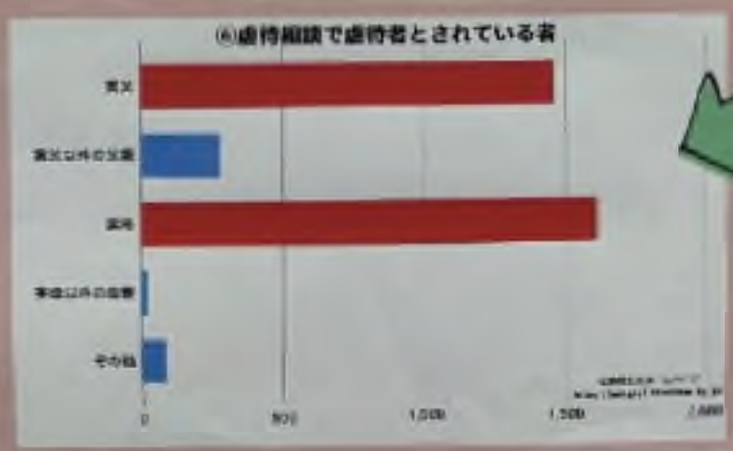
警察からの通報が多い要因

・110番通報の3割ごと即応性
・「面前DV」の通告義務化
・警察と児童相談所の情報連携強化
・24時間365日の緊急対応力

⑤虐待相談の経路



⑥虐待相談で虐待者とされている者



【まとめ】
虐待相談件数が増加する中、発覚のきっかけは「面前DV」の厳罰化にできる警察などを経由するケースが圧倒的な割合を占めている。
その背景には、主な虐待者が「実父母」であり、
子ども自身が「大好きな親と離れたくない」「自分が我慢すればいい」と思考し、
自ら声をあげにくいという切ない実態がある。
児童相談所や保育園は、家庭をおいつめるための場所ではなく、
子どもと保護者の双方を支え、安全を守るための窓口である。
家庭内の異変に気づいたり、「大人なら」という期待のかしこの気づきと
勇気のない連絡が、大切な命と未来を守る第一歩になる。